

一般質問 議：議員／理：理事者

- 勝山市の企業に対する経済支援と市民に対する生活支援について
- ごみ処理とリサイクルへの市の取り組みについて



市政会 石垣智史 議員



議 世界経済の不安定化や物価高騰、コロナ融資返済負担などにより、市内事業者や市民生活に深刻な影響が出ている。こうした中、勝山市として中小企業・個人事業者への経済支援の現状と今後の具体的な施策について伺う。

理 市はコロナ禍以降、国の交付金を活用し、事業継続補助や電気料・燃料費補助など多様な支援を実施してきた。

現行の経済支援として、新たな設備投資への助成、融資利子補給等を行っている。

また、地元金融機関との情報交換等により市経済情勢の把握に努め、セーフティーネット保証制度や制度融資等で資金調達の円滑化を図っている。

令和7年度からはサポートアドバイザー派遣事業を実施しており、事業者の課題解決に寄与できるように人的支援も積極的に行っていきたいと考えている。

議 ごみ処理費の増加が財政を圧迫する中、勝山市のリサイクル率の現状と目標、ごみ処理費削減に向けた具体策、市民のリサイクル意識向上に関する啓発活動の現状と今後の取り組みについて伺う。

理 市のリサイクル率は令和5年度で24.7%となっており、2030年までに27%を目指す。

ごみ処理費削減と意識向上のため、プラスチック資源の分別回収や古紙回収補助を実施している。また勝山市消費者団体連絡協議会による、市民が不要となった日用品等を必要とする方へ譲渡する「蚤の市」やフードドライブなども推進している。今後も市広報やホームページの活用、既存・新規事業の実施、各種団体からの協力を通じて、ごみ減量と市民のリサイクル意識向上を図る。

一般質問 議：議員／理：理事者

- 新たな農法へ向けた支援体制の確立

その他の質問

- ・ 公共施設の備品整備と、市民活動活性化の展開について
- ・ 市民協働による体験型観光の推進と地域資源整備のあり方について
- ・ 持続可能な林業政策と市有林活用による地域活性化について
- ・ 市内におけるスポーツのあり方について



李江嵐 議員



議 全国では「湛水しない稲作」が広がりつつあり、特に茨城県や埼玉県では、節水型水稻栽培の実証が進んでいる。用水量の大幅削減、温室効果ガスの抑制、資材高騰による作業負担の軽減、収益性の向上を同時に実現する可能性がある次世代型の営農モデル。市が先進的な技術の導入をサポートし、モデル地域となることで、地域農業の明確なビジョンを市民に示せる考える。これは単なる農業技術の転換ではなく「農地を再生し、地域を支える人と仕組みを再構築する」ための政策だ。

①市内の休耕田・耕作放棄地の把握状況について、過去の推移はどうなっているのか。

②節水型のモデル圃場で実証を行う構想はあるか。また、稲敷市など、節水型水稻技術の先進事例を有する地域へ現場を直接視察する機会に対する市の考えを伺う。

理 ①市内の耕作放棄地は約27ヘクタールで推移し、農地全体の約1.4%を占める。

②節水型稲作は収量が安定しないことや雑草管理が困難なため、従来の稲作に比べて農薬散布の回数を増やす必要がある。また当市のような特別豪雪地帯では発芽不良を起こす可能性が高く、支援制度創設の予定はない。今年度から県の指導のもと、市内の農業者が乾田直播に取り組んでいるが、播種後の雑草繁茂で稲の成長阻害が確認されており、除草剤で対応している状況である。新たなモデル圃場の設置や実証事業は考えていない。

節水型稲作について先進地では成功事例もあるが、当市とは気候・地形など大きく異なるため、現時点では先進地視察は考えていない。